

## 農機展示予約会、盛況 ～排ガス第3次規制の開始目前～

8月7、8日の2日間、JA全農かながわは、田村事務所で「2015 農業機械展示予約会」を開催した。県下JA組合員が昨年を上回る約2024人（記載人数）来場した。

JA組合員限定の「中古農機販売会」は、51点の出品のうち8割の41点が成約した。

全農かながわの各部（農産、畜産、生活、施設）が出展し事業をPRしたほか、中央会、県信連、全共連、厚生連や関係会社等も出展し、JAグループ神奈川が一体となって会場を盛り上げた。

連日開催された「ミニ講習会」は、メーカー担当者による「農機具の安全講習」「セルフメンテナンス方法」の説明や、「土壌診断」「鉄コーティング栽培技術」など、営農に役立つ情報が各回20分と短い時間で得られる手軽さもあり、満席の回も出る盛況ぶりで、延べ273人が受講した。

国内特殊自動車排ガス第3次規制が9月からスタートする。25.85～50.32馬力未満のディーゼルエンジン搭載農機の現行機種が8月末で生産終了になるため、対象機種の比較検討に訪れる組合員の姿も多く見られた。㈱クボタ担当者によれば、新モデルは排ガスに含まれるディーゼル微粒子を再燃焼して除去する装置（DPF）などを搭載するため、「トラクターで約40万、コンバインで約80万」を目安に価格がアップする予定。「JAや農家組合員さんの関心は高く、6～7月にかけて多くの問い合わせを頂いた。現行モデルの出荷は順調に伸びている。生産終了となる現行モデルの購入は早いほうが良い」という。

一方で、新機種への関心も高まっている。クボタ新機種トラクターの試乗コーナーでは、排気ガスに含まれるディーゼル微粒子（すす）の量を比較して見せた。現行モデルの排ガスをタオルにあてると、すすで黒く汚れるが、新機種の排気ガスはタオルが真っ白なまま。試乗した組合員は、「環境に優しく空気が汚れないのは魅力的」と若い孫たちを気遣った。



排ガス規制対応機種のトラクターに試乗する来場者



51点のうち41点成約した、中古農機販売会



農機具の安全講習などの「ミニ講習会」も盛況だった